



# 英語が通じない!?

国谷裕子 Kuniya Hiroko

様々な人とインタビューができることが今の仕事の最大の醍醐味かもしれない。初対面の人に言わばずけずけと質問をする行為となるのだが、限られた準備時間の中でどうすれば相手のふところうまく飛び込むことができるだろうかといつも悩む。

インタビュー相手の会見のビデオや記事を取り寄せ、どんな言葉遣いで話をするのか、いつもどんな表現で語るのか検討しインタビューの内容をシミュレーションしていく。本人の言葉を引用しながら質問すると相手との距離が短時間でぐっと近づくような気がする。

15年程前のことになるが、元西ドイツの首相であったシュミット氏に英語でインタビューした。マイクをつける準備が進む中で番組の趣旨などを説明していたところ、シュミット氏はいきなり“i cannot understand a word you are saying.” “あなたが言っていることが一言も理解できません”と言った。私はあせってもう一度同じ説明をした。すると彼はまた“一言もわからない”と繰り返した。おかしい、自分の英語が通じない。1時間の番組の柱になるインタビューで自分の言葉が通じない、しかもドイツ語の通訳がない。何度説明しても同じことだった。部屋の空気が張り詰める中、私は気分を変えるため部屋に用意してあったコーヒー、紅茶、オレンジジュース、それに水を指して何が飲みたいか聞いた。元首相は短く“コク”と言った。今度は私が彼の言葉を理解できなかった。“i beg your pardon?”と遠慮がちに聞いた。答えは同じ“コク”。頭の中はもうパニックだった。3回目、彼はややゆっくりと“コーク (coke)”と言った。周りがいっせ

いに立ち上がり、誰かが“コーラだ”と叫んで部屋から駆け出していった。彼はゆっくり私のほうに向き、私に近いほうの耳をさして“こちら側の耳が不自由なのです”と静かに言った。

元首相に言葉で説明することに一生懸命のあまり、彼の顔に浮かんでいたであろう聞きづらいという戸惑いの表情を見過ごしていた私。人から発せられるメッセージを理解するには言葉よりも顔の表情を含むまさに全身からの表現を受け止める力のほうが重要なのだ。そして飲み物についても私たちが用意していた4つ以外のものを求めるとは想像しなかったし、老練なドイツの政治家とコーラはミスマッチだという勝手な思い込みもあった。冷静な状態であればきっとすぐに“コク”がコーラを意味していることがわかっただろう。コミュニケーションはただ単に言葉を知っているだけでは成り立たず、むしろ柔軟な想像力で補完されていること、つまり話して聴くだけでなく、見て想像力を働かせることがいかに大切であるかを実感した貴重な経験となった。

その日のインタビューは、私が場所を移動しシュミット氏の反対側に座ることで無事終了したのであった。

## くにや ひろこ

大阪府出身。テレビ・キャスター。米ブラウン大学卒。1981年よりNHKニュースの英語放送を担当。87年、衛星放送のNY発キャスター、93年より現在まで「クローズアップ現代」を担当。02年にスタッフとともに菊地寛賞を受賞。米国、香港など12年間の海外生活。